

環境保全型農業支援事業においては、有機農業などを中心とした形での作業を行っている方に補助しており、高付加価値の商品の生産に寄与している。



水城公園北口駐車場



行田産「さきたまめ」

令和6年度行田市交通災害共済事業 費特別会計歳入歳出決算

問 全体収支で不用額が4千万円ほど出ており、毎年多くの不用額が出ているが、基金への積立てや、会費を少なくするなどの考えはあるか。

答 不用額については会費収入に対して見舞金の金額が結果的に少なかつた、つまり交通事故にあわれた方が少なかつたことによるものであるが、毎年多額の不用額を発生させていることも事実で、会費や給付面など、制度全体での見直しも必要でないと考えている。不用額を発生させないためには、基金への積み立ても一つの方針であるとも考えるが制度の見直しと一緒に総合的に考えてみたい。

健康福祉常任委員会

○令和6年度行田市介護保険事業費 特別会計歳入歳出決算認定

問 介護認定審査会において、ペーパーレス化やオンラインでの参加などを開始したが、その成果はどうか。

答 書類のデジタル化によって、資料送付までの時間が延びたことで、1回の審査会で審査できる人数が増加したことは成果だと思つてている。介護認定の判定結果が出るまで

平均で52日を超えていたと思うが、改善することはできないのか。

答 市民の方やケアマネジャーから声も届いていた。現在、医師会の先生方とも協力し改善に取り組んでおり、今年度の7月までの結果においては、平均42日～43日と短縮されたが、今後も努力していくたい。

令和6年度行田市一般会計歳入歳出 決算認定

○救急救命士養成事業

問 救急救命士の資格を持つている職員は本市では足りているのか。

答 本市の救命活動上、人数が不足しているという認識はないが、1隊につき救急救命士が2名搭乗することと、常時2名搭乗するためにはもう少し養成が必要と考えている。



救急救命士の病院実習の様子

は、2年間で128時間以上の再教育を受けることが努力義務となつている。そのうち48時間以上は医師の管理下で病院実習をする必要があり、救急患者のバイタル測定や点滴処置など、技術的な研修を行っている。

問 令和5年度には民生委員の人数が14名不足とのことであつたが、昨年度は解消されたのか。また、民生委員を増やすためにどのような努力をしたのか。

答 昨年度の民生委員の定数は167名で実際の人数が152名であり、15名の欠員となつた。また、昨年度は市ホームページ及び市報において初めて欠員している地区を紹介し民生委員の応募を行つた。今年度においても、民生委員の活動を見える化し、必要な取組だけを行つてもう少し負担軽減を図つていただきたい。

○子ども等多世代の居場所づくり支援事業

問 多世代交流事業の対象年齢は、また、昨年度取り組んだ事業内容は。

答 多世代交流事業については、年齢制限はなく、子どもからお年寄りまで参加可能であり、主にコンサートや手づくり体験、クリスマス会などの季節のイベントを実施している。